

平成19年度事業報告

社団法人 日本キャンプ協会

平成19年度 事業の総括

平成19年度は索莫とした世相を映すかのように、身近な食品の偽装が明らかにされたり、官僚の不正が糾されたりと、心の休まる暇がないような日々が続きました。年末に発表される、恒例のその年を言い表す漢字には「偽」が選ばれるという年でもありました。

一方、スポーツでは若い人々の台頭と活躍に明るい希望のふくらんだ一年でした。特に北京オリンピックに向けた、野球のアジア地域予選では「星野」JAPANに大きな声援を送りました。

そして、日本キャンプ協会では事業運営において、大きな変化の起こった年度であったとすることが出来ます。

富士山西麓に位置する215,875㎡(6万5千坪)の大規模野外活動施設、静岡県立朝霧野外活動センターが平成19年4月1日から、日本キャンプ協会グループ(社)日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会、(NPO)静岡県キャンプカウンセラー協会、(NPO)子どもの体験活動サポートセンター)の手によって管理運営されることとなりました。

これは、前年の9月に静岡県の行った「静岡県立朝霧野外活動センター」の運営に指定管理制度を導入するとの発表に応じて、日本キャンプ協会グループが「静岡県立朝霧野外活動センター運営のための提案書」を静岡県教育委員会に提出したところ、平成19年度からの同センターの管理運営を委託されることが決定したことによるものです。

日本キャンプ協会としても前例のない大規模施設の運営は、4月当初より、手探り状態で始まりました。毎日が緊張と新しい出来事の連続でしたが、若いスタッフの頑張りによって手応えのある一年間の運営を行うことが出来ました。3月に開催された外部評価委員による「評価の伝達会」でも、良い評価をしていただくことが出来ました。

また、このことによって、平成19年度は朝霧野外活動センターを会場とする事業が多く行われました。「自然体験活動青年ミーティング」「キャンプディレクター養成講習会」「支部事務局担当者研修会」「全体専門委員会」「海外(モンゴル)指導者招へい」等々で、参加者は朝霧高原の豊かな自然と富士山を満喫しながら、良い研修をすることが出来ました。

この年で17回目を迎えた「全国キャンプ大会」は和歌山県の高野山で開催されました。ユネスコ世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」に、全国から200名を超える人々が集まり、「癒し」をテーマとしたプログラムが展開されました。従来とは異なり、宿坊に宿泊したり、早朝のお勤め(勤行)に参加するといった貴重な体験もあり、準備されたそれぞれのプログラムに和歌山県キャンプ協会の実行委員の方々のアイデアが光りました。

1975年から開催されてきた「キャンプアカデミー」の事業は、ここ数年中断されてきました。しかし、キャンプ指導者が社会の変化に応じて必要なことを学ぶ場の復活を求める声に応じて、3月に2回のシリーズで「キャンプアカデミー」を開催しました。「キャンプカウンセリングの基礎」や「森林療法とそのキャンプへの応用」を学ぶことによって、多くの参加者のもっと学びたいという意欲が刺激されました。

野外活動における安全の確保は、指導者にとっても参加者にとっても重要な事柄であり、欠くことのできないものです。安全管理委員会では、夏休み直前の7月第3日曜日を「キャンプ安全の日」として一般の方々の安全に対する意識を啓発してきました。さらに、この年度は野外での安全についてまとめた「アウトドアパスポート」を作成、全国の136校の小中学校で配布し、児童・生徒への安全啓発を行うことが出来ました。また、指導者のために東日本と西日本の2会場で「リスクマネジメントセミナー」を開催し、野外活動における今日的な諸課題についての学びを深めました。

このように平成19年度も様々な課題に取り組み、キャンプの普及と振興のために事業を進めることが出来たことを皆様へ感謝申し上げます。

また、理事の65歳定年制の導入にともない、これまで日本キャンプ協会に指針を示していただいた10名の方々が定年を迎えられました。長年にわたるご尽力に感謝を申し上げます。特に、10年間にわたり会長を務めていただいた酒井哲雄氏には深く感謝をお伝えするとともに、引き続き名誉会長として日本キャンプ協会の発展を見守ってくださるようお願いするものです。

現代はますます人と人、人と自然の結びつきを必要とする時代になってきたように感じられます。自然の中で行う野外活動(自然体験活動)が次の世代にしっかりと継承されるよう、次の年度も皆様の篤いご理解とご支援をお願いいたします。

平成19年度 事業報告

1) キャンプの普及サービスに関する事業

キャンプの持っている様々な可能性を、多くの人々の間に広げていくことが普及サービス活動の基本である。キャンプにおける個々の活動(アクティビティ)の一つひとつが個人の成長過程に大きな影響を与えていくことを認識し、それぞれのキャンプがより良い内容で運営されるためにキャンププログラムの開発や普及を目指す必要が求められている。時代の要請に応じたよりよいキャンプを広め、良質なキャンププログラムの開発・普及が進むようにこの年度は以下のような事業を行った。

(1) 第17回全国キャンプ大会の実施

第17回全国キャンプ大会は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された和歌山県の高野山で開催された。「世界遺産！霊場高野山でヒーリングプログラムを！」をメインテーマに全国のキャンプ指導者やキャンプ愛好者が、真言宗総本山金剛峯寺を中心とする高野山の地に会した。大会期間中は歴史を刻んだただいまのうちのプログラムや熊野古道の散策等を楽しみつつ、今後のさらなる社会貢献の道を探る機会となった。

- 期 日：9月15日(土)～9月17日(月・祝)
会 場：和歌山県高野山町およびその周辺
主 催：(社)日本キャンプ協会
主 管：和歌山県キャンプ協会
後 援：文部科学省・和歌山県・和歌山県教育委員会・高野町・高野町教育委員会・高野山真言総本山金剛峯寺・滋賀県キャンプ協会・京都キャンプ協会・大阪府キャンプ協会・兵庫県キャンプ協会・奈良県キャンプ協会・株式会社テレビ和歌山
協 力：都道府県キャンプ協会・社団法人ガールスカウト日本連盟和歌山県支部・日本ボーイスカウト和歌山連盟・和歌山YMCA・和歌山県ネイチャーゲーム協会・野外活動塾
協 賛：株式会社小川テント・財団法人和歌山県緑化推進会・社団法人和歌山県観光連盟 ほか
参 加 者：222名(うちスタッフ63名)
内 容：基調講演「現代人の危機～失われた自然感覚～」講師 村上保壽氏(高野山真言宗教学部長)
キャンピングアワード2007 贈呈式・キャンプサミット・情報交換会
【フリーチョイスプログラム】
・熊野古道巡礼 ・コウヤマキ林観察 ・森林セラピー®(療法)体験 ・数珠づくり・薬草教室
・ツリークライミング® ・キノコ観察 ・森づくり体験 ・健康づくり・森の瞑想体験 ・高野三山巡り
【時間外プログラム】
・ムササビ観察 ・たき火親睦会 ・自己申告プログラム(ススキの葉のバッタづくり)
高野山体験プログラム(キャンプ曼茶羅)

(2) キャンプ支援事業の実施

「キャンプ」が持つさまざまな可能性を社会にアピールするため、本協会の会員が取り組むキャンプに対して財政的支援や広報協力などを行った。この年度は対象を「週末子どもクラブ」「デイキャンプ」とした。

- 対 象：日本キャンプ協会の個人会員、団体会員、
内 容：原則として年度内に実施、完了するキャンプで下記のいずれかに該当するもの。
週末子どもクラブ
・主に小中学生をも対象とした20人以上のメンバーを有する
・週末を利用して日帰りもしくは1泊程度の短期の野外活動を行う
・活動はおおむね年間4回以上、定期的に行われるデイキャンプ
・キャンプの愛好者の層を広げるような、多様な世代を対象とした日帰りの野外体験活動
・1回の活動に20人以上が参加する活動
締 切：第1次 2月28日 第2次 4月15日 (協会必着)

支援決定事業は、次の件となった。

申請者氏名(支部)	キャンプの名称	金額
北田まり子(群馬県)	週末友遊クラブ	20万円
栗本薫(兵庫県)	G.N.C.A.アウトドアクラブ2007	20万円
松田健司(北海道)	豊似川クラブ	15万円
愛媛県キャンプ協会	まつやま「野あそびクラブ」2007	15万円
東雅宏(石川県)	ぱるぱるキッズ2007	15万円
星広美(福島県)	いな夢くらぶ	10万円
藤原美里(熊本県)	青風いきいき登山塾 ~ミヤマキリシマ物語~	5万円

(3) 自然体験活動青年ミーティング2007の実施

学校が行うキャンプ実習等に参加し、自然体験活動の楽しさや面白さに触れ、「もっと体験を深めてみたい」「同じような気持ちの人々と話し合ってみよう」と思う青年たちのために「自然体験活動青年ミーティング」を実施した。この事業は同世代の同じ志を持つ者同士の出会う場として、技術や理論を学びあう場として、次の世代の野外活動を担う青年たちの貴重な学びの場として大切な役割を果たしている。

また、このミーティングは参加者と同世代の青年たちが組織する実行委員会によって企画・運営されており、それ自体が実行委員自身にとっての格好の学びの場となっていることも見逃せない。この年度は、会場を静岡県立朝霧野外活動センターに移し、周辺環境を生かしたさまざまなプログラムが行われた。

- 期 日：9月22日(土)～9月24日(月・祝)
 会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
 主 催：(社)日本キャンプ協会 自然体験活動青年ミーティング2007 実行委員会
 後 援：(財)ボーイスカウト日本連盟 (社)ガールスカウト日本連盟 (財)日本YMCA同盟 (財)東京YWCA 日本野外教育学会 (社)日本環境教育フォーラム (NPO)自然体験活動推進協議会 日本アウトドアネットワーク(JON) 開催にあたっては「子どもゆめ基金」の助成を受けた。
 参 加 者：86名 ほかに講師17名(実行委員との重複4名) 実行委員6名、運営スタッフ11名
 内 容：実行委員によるパネルディスカッション
 【ワークショップ】
 キャンプの危険、あなたならどうする?～RME～
 自然を体感しよう! とことん学ぼう! 「Leave No Trace」
 Let's Enjoy Field Music! ～自然が楽器になる=音が自然に溶け込む～
 キャンプカウンセリング～ココロに響くコミュニケーション～
 マウンテンバイクで朝霧を走りつくす!
 朝霧高原溶岩洞窟探検

ほか計15本

(4) キャンプソングフェスティバル'07の開催

思いを伝える、雰囲気を作るためのキャンプアイテムの1つであるキャンプソング。「とことん歌う」ことをコンセプトに、長く歌い継がれてきた曲から、新しい曲まで、歌唱指導法なども交え場柄、時間いっぱいまで歌う“つどい”を開催した。

- 期 日：6月30日(土)～7月1日(日)
 会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
 主 催：(社)日本キャンプ協会
 参 加 者：43名(うちスタッフ4名)

(5) 第7回キャンプ場ミーティングの開催

「キャンプ場からアウトドアの未来を考える」を基本コンセプトに、キャンプ場・野外活動施設関係者が集い、講演や討議、情報交換を通じて、キャンプ場・野外活動施設運営のノウハウの共有を図るつどいとして実施した。今回は「キャンプ場のち・ら・し」をテーマに、キャンプ場の広報について、事業の広報手段やインターネットの活用について学んだ。

期 日：6月18日(月)～6月19日(火)
 会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
 主 催：(社)日本キャンプ協会
 参加者：25名(うちスタッフ5名)

(6) キャンプアカデミーの開催

1975年から開催されてきたキャンプアカデミーは、日本のキャンプ・ムーブメントの中核となる指導者の育成に大きな役割を果たしてきた。社会情勢の大きな変化の中で、キャンプを取り巻く環境、キャンプに求められる社会的役割も大きく変化しており、その変化に応える指導者育成の機会として新たにキャンプアカデミーを実施した。この年度は「キャンプ・カウンセリング～人と人・人と自然～」をテーマに、キャンプ・カウンセリングの基礎と森林療法について学んだ。

期 日：第1回：3月9日(日) 第2回：3月16日(日)
 内 容：第1回 キャンプ・カウンセリングの基礎 講師：太田正義氏【スクールカウンセラー】(39名参加)
 第2回 森林療法とそのキャンプへの応用 講師：上原 巖 氏【東京農大準教授】(34名参加)
 会 場：川崎市黒川青少年野外活動センター(神奈川県川崎市)
 主 催：(社)日本キャンプ協会

(7) 「週末子どもクラブをつくろう！」の作成

子どもたちに身近な地域における自然体験活動の場を提供するとともに、会員が手軽に活動に取り組めるように、小冊子「週末子どもクラブをつくろう！」を発行した。すでに会員が取り組んでいる事例のレポートを中心に、活動を行うためのポイントを収録した。

判型：B5サイズ 32ページ カラー (8000部作成)

(8) 普及振興事業等への後援・協力

キャンプ、野外活動の普及振興に関する事業の事業受託および後援、協力、協賛を行った。

事業の運営受託

a. Jリーグ サンフレッチェ広島スプリングスクール2007

(サンフレッチェ広島主催)

期 日：4月3日(火)～5日(木)
 会 場：広島市立似島臨海少年自然の家
 内 容：アウティング・キャンプファイアー・野外料理ほか
 参加者：サンフレッチェ広島ジュニアチーム・スクール生60名
 協 力：広島県キャンプ協会

b. Jリーグ・アカデミーフェスティバルへの協力

会 場	期 日	チ ャーム	参加者数	会 場	期 日	チ ャーム	参加者数
新潟会場	7月28日～30日	10	190名	仙台会場	8月14日～16日	8	138名
中伊豆会場	8月1日～3日	8	126名	愛媛会場	8月22日～24日	10	168名
きじま平会場	8月1日～4日	31	約300名				

内 容：中伊豆・きじま平会場では、ASEやキャンプファイアーなどのプログラムの提供
 仙台・愛媛会場では、生活場面も含めたプログラムを提供
 新潟会場では日本・中国・韓国の3ヶ国対抗戦のU-14フェスティバルにおいて、インタビューに新潟県キャンプ協会の協力を得て野外炊事プログラムを提供

事業の協力

あしがらシニアキャンプへの協力

期 日：10月6日(土)～8日(月)
 (高齢者の参加は7日～8日の1泊2日)
 会 場：神奈川県立足柄ふれあいの村(神奈川県南足柄市)

- 主 催：あしがらシニアキャンプ実行委員会
参 加 者：150名（高齢者17名・高齢者の家族3名・ボランティア81名・スタッフ49名）
内 容：実行委員としての参加・事前講習会の講師・進行全体のアドバイザー

2) キャンプの安全管理に関する事業

適切な安全管理の下ではじめて、楽しいキャンプが行われるという考え方をひろめていくためにも、事故情報の収集、リスクマネジメント、危険予知・危険回避能力向上のための学習等は指導者にとって必要である。

安全管理に関する情報が常に、指導者やキャンプ愛好者に提供される状態が作られていくことを目指し、以下の事業を実施した。

(1) 事事故例の収集・分析・公開

キャンプ・野外活動、自然体験活動等で発生した事故やけが、ヒヤドキ体験等の情報を広く全国から収集した。（約180名のオフィシャルレポーター に夏季キャンプ時のアンケートを行った。）

(2) キャンプ安全マニュアルの作成

キャンプ指導者・キャンプ場等の最低安全基準を設け、安全意識を底上げするために、キャンプ安全マニュアルの作成を検討した。マニュアルの完成は平成20年度を予定しており、次年度も引き続き検討を行なうこととなっている。

(3) 安全思想の普及（キャンペーン）

キャンペーン活動の具体化

支部や団体の協力を得て、キャンプ安全の日（7月の第3日曜日）を中心に全国各地でイベントや安全講習会等を行い、安全で楽しいキャンプについて考えてもらうきっかけとした。

また、「安全なキャンプのための標語2007」を募集し、一般の部に1,729件、新たに作られた少年少女の部に198件の応募があった。審査の結果、一般の部では黒崎美穂さん（北海道）の作品「安全もリュックに詰めて キャンプへGO」、少年少女の部では足立直紀さん（静岡）の作品「安全キャンプは楽しいね 心ワクワク ごはんパクパク」が最優秀作品とされた。なお、この標語は2008年度の会員証（裏）にも刷り込まれている。

冊子の作成と配布

「安全なキャンプのために パート8 ～楽しく学ぶキャンプの安全～」【B5版 24頁】を7,000部作成し、広くキャンプ指導者や愛好者等に配布した。

内 容：キャンプの安全を楽しく学べる方法（危険予知エクササイズ、リスクマネジメントエクササイズ、安全×クイズなど）が紹介されている。すぐに活用できるよう100問の×問題を載せており、指導者や愛好者がすぐに活用できるようにした。

(4) 野外活動指導者のためのリスクマネジメントセミナーの開催

野外活動の各フィールドでの実践的な研修を通して、野外活動指導者等の安全対策面での資質向上を目的に、東日本・西日本の2会場で実施した。西日本会場では昨年に引き続き、(財)関西テレビ青少年育成事業団との共催で行なわれた。

東日本会場

- 期 日：平成19年12月1日（土）、2日（日）
会 場：かながわ県民サポートセンター（横浜市）
主 催：（社）日本キャンプ協会
主 管：神奈川県キャンプ協会
参 加 者：13名
内 容：プレイパークの安全、応急手当とAED、リスクマネジメント、プログラムの安全、リスクマネジメントエクササイズの体験等

西日本会場

期 日：平成20年2月2日(土) 3日(日)
 会 場：大阪府立青少年会館
 主 催：(社)日本キャンプ協会 (財)関西テレビ青少年育成事業団
 協 力：(財)大阪府青少年活動財団 近畿ブロックキャンプ協会
 参加者：117名
 内 容：最近の事故事例から学ぶ野外活動の安全、安全グッズ紹介、リスクマネジメントエクササイズ
 の体験、野外活動で発生する法的責任と判例、心のリスクマネジメント、食の安全等

(5) 安全教育プログラムの普及

各地で行われるリスクマネジメントセミナーに出向き、参加者にリスクマネジメントエクササイズを体験してもらい、普及に努めた。

3) キャンプ指導者養成に関する事業

平成19年度は、新指導者養成制度の定着と指導者の理論的、技術的レベルの向上をめざすと同時に、支部協会の人々との協働を意識しながら、事業を行った。

(1) 指導者講習会の開催

キャンプインストラクター養成講習会(課程認定団体にて)
 課程認定団体(大学・短大・専門学校・社会教育団体等による養成 5,094名)
 (支部協会による養成 670名)

キャンプディレクター2級(プログラムディレクター)養成講習会(全国5ヶ所で開催)

開催ブロック	日 程	受講者	場 所
北海道・東北	8月31日(金)~9月2日(日)	12名	滝野自然学園
関 東	9月22日(土)~9月24日(月・祝)	10名	栃木県立太平少年自然の家
九州・沖縄	10月6日(土)~10月8日(月・祝)	6名	福岡県立英彦山青年の家
近 畿	10月19日(金)~10月21日(日)	4名	大阪府立総合青少年野外活動センター
関 東	2008年2月9日(土)~2月11日(月・祝)	10名	横浜市野島青少年研修センター

キャンプディレクター2級(マネジメントディレクター)養成講習会(全国4ヶ所で開催)

会 場	日 程	受講者	場 所
東 京	6月30日(土)・7月1日(日)	9名	国立オリンピック記念青少年総合センター
石 川	9月8日(土)・9月9日(日)	3名	白山市松任学習センター
大 阪	10月20日(土)~10月21日(日)	6名	大阪府立総合青少年野外活動センター
神 奈 川	2008年2月10日(日)・2月11日(月・祝)	2名	横浜市野島青少年研修センター

キャンプディレクター1級養成講習会(全国2会場で開催)

開催地区	日 程	受講者	場 所
西日本	10月31日(水)~11月4日(日)	4名	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11月21日(水)~11月25日(日)	5名	静岡県立朝霧野外活動センター

キャンプディレクター1級検定会(全国2会場で開催)

会 場	日 程	受検者	場 所
東日本	2008年1月19日(土)~1月20日(日)	6名	国立オリンピック記念青少年総合センター
西日本	2008年1月26日(土)~1月27日(日)	5名	箕面市立青少年教学の森野外活動センター

(2) 指導者養成・研修事業の支援

課程認定団体(B団体)の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成の実際について説明を行った。

開催日	場 所	参加校	参加者
5月19日(土)	国立オリンピック記念青少年総合センター	24校	34名

平成19年度全国野外活動指導者研修会の共催
 全国の野外活動の現場に立つ人々を対象とし、文部科学省・野外活動団体連絡協議会との共催で最新の技術や情報を発信する指導者研修会を実施した。

期 日：平成19年6月8日(金)～10日(日)

会 場：国立岩手山青少年交流の家

主 催：文部科学省・野外活動団体連絡協議会・岩手県教育委員会・国立岩手山青少年交流の家

参加者：49名

内 容：講 義「岩手の山の魅力と山をフィールドとした野外活動」

講師：元岩手県キャンプ協会長 諏訪 弘 氏

実 習・演 習「山をフィールドとした野外活動」

講師：岩手山青少年交流の家 登山指導員 石川 享子氏 他

研究協議「現代における野外活動の意義とリスクマネジメント」

講師：明治大学教授(社団法人日本キャンプ協会常務理事) 星野 敏男氏

(3) 指導者の審査・認定

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプインストラクター		キャンプディレクター2級		キャンプディレクター1級	
	受験者	合格者	申請者	合格者	申請者	合格者
平成19年 4月15日			8	8	4	4
6月8日			5	5	3	3
9月28日			11	11	3	3
11月15日			13	13		
平成20年 1月11日			11	11		
2月15日			5	5	1	1
課程認定団体による養成分	5,764	5,764				
合 計	5,764	5,764	53	53	11	11

課程認定団体の審査・認定

課程認定審査会を実施し、新規の課程認定団体の審査を行った。

審査会日程	団 体 名
平成19年 6月8日	仙台医健専門学校、一宮女子短期大学、札幌大学文化学部、尚美学園大学、福山 YMCA 国際ビジネス専門学校、愛知東邦大学人間科学部、流通経済大学スポーツ健康科学部
12月20日	筑波大学野外運動研究室、帝京大学、帝京大学短期大学

平成19年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
44	114	9

認定証、資格章(バッジ)等の作成

指導者の認定に伴い、認定証、資格章(バッジ)登録用紙を作成した。

4) 調査研究に関する事業

年々蓄積されていくキャンプ・野外活動関係の各種調査や研究成果の情報をわかりやすく、広く一般の人々に知らせるとともに、研究者に対する情報提供のサービス等を今年度の重点に置き、調査研究委員会では以下の活動を行った。

(1) 「キャンプデータブック2007」の作成

2007年度中に発表されたキャンプに関する研究成果やデータを中心に
とりまとめた「キャンプデータブック2007」を作成した。(10,000部発行)

(2) キャンプ関係書籍・資料データベースの運営

「キャンプ関係書籍データベース」のあり方や運営方法について検討を行った。

(3) 『キャンプ研究』の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表

の場として、本年度も継続して研究誌を発行した。

第11巻第1号(平成19年5月19日発行)

(5,000部発刊)

<キャンプミーティングインジャパン2007-第11回日本キャンプ会議特集号>

第11巻第2号(平成19年9月30日発行)

(3,000部発刊)

[実践報告] あさお冒険クラブの仲間づくりとエコ・キャンプをめざして野外活動を通して気づくこと-

[研究資料] キャンプ活動が睡眠に及ぼす影響

障害者キャンプにおけるバリアの研究-身体障害者模擬患者を通して-

キャンプ実習における参加者の期待度・満足度に関する研究

第11巻第3号(平成20年1月30日発行)

(3,000部発刊)

[特集] 不揃いの麦から作るビールの味には深みがある

[実践報告] キャンプ参加者が自己実現をはかるためのスタッフの支援について

- 白山市アドベンチャーキャンプの実践から -

[研究資料] クラフト活動が参加者のふりかえり体験に及ぼす効果

外国人チューターとのキャンプ経験がキャンプ参加者の意識や行動に与える影響

[報告] 第11回日本キャンプ会議全体報告~みんなでつくるあしたのキャンプ(キャンプ場編)~

(4) キャンプミーティングインジャパン2007-第11回日本キャンプ会議

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通して、情報の活性化、指導者の交流を促す機会として開催した。

期 日:平成19年5月19日(土)

会 場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者:144名 発表者20名

内 容:キャンプの実践報告および研究発表

[口頭発表] 14題

2007年は日本の組織キャンプ100周年か? 最近5年間における野外教育研究の傾向 日本の野外種加に対する

中国天津市の大学生の理解程度と興味 アフリカ熱帯雨林に住む狩猟採集民のキャンプ生活 日本キャンプ協会国

際交流委員会の働き-AOCF 創立- “WILDERNESS FIRST RESPONDER” 野外救急法資格取得コース

2007 ACA National Conference 参観報告-その1 組織キャンプ体験が子どもとその保護者へ及ぼす影響について

看護専門学校授業として行うキャンプにおける学生の学び デイ・キャンプで社会的スキルをより高めるには

クラフト活動が参加者のふりかえり体験に及ぼす効果 学校教育における宿泊型自然体験種加の取り組みについて

大学野外種加のプログラムの質向上に寄与するキャンプ道具の使用について ユニバーサルキャンプ2006実施報告

[ポスター発表] 7題

少年期の組織キャンプにおけるSignificant Life Experiencesが成人後の環境種加に及ぼす影響 組織キャンプの魅力

に関する研究~花山キャンプを事例として~ 中学校における教科と自然体験種加の関連について キャンプカウンセ

ラーの成長に関する研究 キャンプインストラクター養成カリキュラムの指導実習における受講者の心理的変化と自己評価

サンフレッチェ広島ジュニアチームキャンプ~10年の軌跡~ 2007ACA National Conference 参観報告-その2

(5) 「青少年の意欲向上・自立支援事業」に関する調査

文部科学省の委託事業として、「青少年の意欲向上・自立支援事業」に関する調査を行い、全国57団体、1,604名のキャンプ主催者の協力を得てキャンプが青少年の生活行動に及ぼす影響力などを調査し

報告書を作成した。

5) 国際交流に関する事業

日本キャンプ協会の国際交流事業には、アジア地域におけるキャンプムーブメントの醸成を支援するという側面と、私たちが国外の状況を学ぶという2つの側面がある。2007年度は国際会議等の大きなイベントはなかったが、モンゴルの指導者の招へいとアメリカキャンプ協会全国大会への参加補助等の事業が継続して行われ、多くの交流と学びの機会を創出することができた。

(1) モンゴルキャンプ指導者4名の招へい

モンゴル国立国際子どもセンターの4名の指導者を招き、キャンプ場数カ所等の見学をしてもらうとともに、「07 キャンプミーティング in 黒姫高原」(ラポ国際交流センター主催)に参加し、日本のキャンプ指導者との交流を図った。

期 日：11月9日(金)～11月19日(月)
受 入：静岡県立朝霧野外活動センター 富士山YMCAGローバルエコビレッジ
国立科学博物館 東京YMC A 関西テレビ青少年育成事業団
大阪府立総合青少年野外活動センター 大阪市立信太山青少年野外活動センター
07 キャンプミーティング in 黒姫高原(ラポランドくるひめ)
東京YWCA野尻湖キャンプ場 ほか
協 力：財団法人ラポ国際交流センター NPO法人キャンピズ ほか

(2) アメリカキャンプ協会全国大会参加補助の実施

テキサス州オースティンで開催されたアメリカキャンプ協会全国大会の参加者1名に参加補助を行った。

期 日：2月12日(火)～2月15日(金)
場 所：アメリカ合衆国・テネシー州ナッシュビル
対 象 者：1名(補助額10万円)

(3) アジア・オセアニア・キャンプ連盟事務局の運営

アジア・オセアニア・キャンプ連盟の事務局としてホームページを通じた情報提供や、次期アジア・オセアニア・キャンプ会議(2009年・台湾)の準備作業を行った。

6) 情報サービスに関する事業

キャンプ・野外活動の動向、キャンプの教育的な意義等を伝えることに加え、新しいキャンプの技術やゲームの紹介など、日常のキャンプ活動に役立つ情報を多く発信することに努めた。また、ホームページの更新やメールマガジンの配信等ITを利用しての情報伝達にも意を用いた。

(1) 会報「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報の提供および会員相互の情報交換のための会報を隔月に発行した。「現場で役立つ情報提供をわかりやすく」をコンセプトに紙面づくりを行った。(年6回発行)

第116号 4月1日 特集「テント」
第117号 6月1日 特集「キャンプファイアー」
第118号 8月1日 特集「安全もリュックに詰めて・・・」
第119号 11月1日 特集「だからキャンプはやめられない」
第120号 12月1日 特集「キャンプと国際交流」
第121号 2月1日 特集「幼児とキャンプ」 (各25,000部発行)
・オフィシャルレポーターによる定期的モニタリングをあわせて行った。

(2) ITを有効活用した情報発信

ホームページの充実 新着情報の定期的な書き換え、一般向けおよび会員向けページの充実を図った。
メールマガジンの発行 BUC情報や委員会等、新しい情報を配信した。

第42号	4月12日	第43号	4月27日	第44号	5月25日
第45号	7月5日	第46号	9月10日	第47号	11月20日
第48号	1月7日	第49号	3月19日		

セキュリティ面の強化 サーバのセキュリティ強化の為、支部ホームページの管理方法を見直しアクセス制限等を実施した。

(3) キャンプ・インフォメーションセンター

キャンプ協会の対外窓口として、各種キャンプや指導者、キャンプ場の紹介、用具、図書、情報等についての相談に応じた。(年間受付相談162件)

キャンプアクティビティシートを発行した NO.6~11 各500枚

夏休み前の、1都1道16県・136校の小中学校に、野外での安全に役立つ「キャンプパスポート」を配布した (25,000冊)

季節ごとの遊びを紹介したアウトドアシーズンズブックを発行した (4回 各2,500冊)

上記の は、WOODS(高島株式会社)の協賛により実施した

(4) イベント等でのキャンプ協会ブースの設置

全国規模で行われるイベント等で、キャンプ協会の冊子配布など情報提供できる機会にブースを設置し普及を図った。(東京アウトドアフェスティバル等)

(5) オフィシャルレポーターによる会員ニーズのマーケティング

CAMPINGなどのアンケートを中心にモニタリングを行った。19年度のレポーター数181名

7) キャンプにおける諸基準の整備・評価等に関する事業

(1) 支部活動の支援

キャンプの活動の拠点であり、最先端である支部協会が積極的に新しい試みにチャレンジ出来る体制をつくりあげることが、キャンプの普及にとって不可欠の要件である。そのため、支部のポテンシャルが最大限に生かされるよう現場主義に立った支部活動の支援体制を作る。

支部事務局担当研修会の開催

「支部運営マニュアル」をテキストに、事務局担当者もしくはその候補者を対象に、広報、組織運営、会計などを学ぶ研修会を全国3カ所で開催した。

a) 朝霧会場 静岡県立朝霧野外活動センター (13支部 28名参加)

b) 大阪会場 大阪府立総合青少年野外活動センター (6支部 7名参加)

c) 東京会場 国立オリンピック記念青少年総合センター (17支部 27名参加)

支部活動推進キャラバンの実施

インストラクター養成、指導者研修、普及イベントなど必要なものについて支部に派遣するためのルールづくりを行うとともに、講師の派遣を行った。

キャンプ用品、用具の配布

より多くの人々に安全で楽しいキャンプを普及するため、(財)日本宝くじ協会の助成を受けて、全国の都道府県キャンプ協会(支部)に、キャンプ講習会、研修会、各種組織キャンプ、ファミリーキャンプ、キャンプ大会等で活用できるテント等のキャンプ用備品の配布を行った。

(2) BUCの承認

指導者自身が新しい情報を入手したり、キャンプにおける学びを深めたりすることが出来るための場としてBrush Up & Communication(BUC)を実施した。

あわせて、BUC参加を促すための策として、平成19年度のBUC参加者に対して平成20年度の資格更新料の免除を開始した。

(3) 日本キャンプ協会のブランドマネジメントをすすめる

協会出版物、広報等のブランドマネジメントのためのガイドラインづくりを検討した。

(4) アクREDITキャンブ(公認キャンブ)等の制度化、整備作業を継続して行う。

安心して参加出来るキャンブ、より優れたキャンブを多くの人々に告知・公開するために、日本キャンブ協会アクREDITキャンブ(公認または推薦のキャンブ)の制度化を検討した。

*公認または推薦のシステム作りをゴールとし、そのシステム構築の可能性について調査を継続する。

(5) キャンブ場の認定

「優良・認定キャンブ場認定制度」によるキャンブ場の認定を行った。認定を受けたキャンブ場については、協会HP(キャンブ場データベース)などを通じ公表し周知を徹底した。

8) 出版に関する事業

キャンブについての情報を一般の人々に知らせること、指導者にシェアすることを使命として、キャンブ関連書籍の出版を行う。

(1) 「キャンブ指導者入門」の改訂

キャンブインストラクター養成講習会に使用する

「キャンブ指導者入門」の改訂を行い、増刷した。

(2) ISBNコードの取得

日本図書コード管理センターへ申請し、出版物の

ISBNコード付記を行った。

(3) 書籍の出版

「キャンブの安全 事故事例と判例から学ぶ」(東海大学教授 野間口英敏著)

を発売した。(500冊)

9) 朝霧野外活動センターの運営

(1) 指定管理者としての1年目の管理運営

あらゆる点で18年度並(県直営時)の運営を維持することや朝霧野外活動センターの実態把握に努めることがまずはじめの課題であったが、県直営職員が1名も残らない総入れ替えの指定管理であったため現状の把握や、職員体制を整える間もなく繁忙期を迎え、非常にハードな状態が続いた。そのような中でも見直しが可能なところから施設のハード面や運営・指導体制などを整えた。徐々に利用者数が減る10月頃から業務が落ち着きはじめ、2年目・3年目に向けて課題等の洗い出しに目を向け、あらゆる面で利用者のニーズに対応できる体制を整える準備をするよう努めてきた。

(2) 利用状況(前年度との比較)

1年次の目標である過去6年間の平均(本館棟:41,169人、キャンブ場:19,136人)は、キャンブ場利用人数において目標値をクリアできなかった。

5月~9月の利用が非常に多く、特に5月と8月は、前年度の一斉予約での利用調整はすでに限界となっているので11月~2月の閑散期利用を増やすことが今後の課題といえる。

本館棟利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18年度	3,931	5,579	3,900	5,137	4,447	3,200	3,025	4,775	2,361	2,231	3,475	3,102	45,163
19年度	3,138	5,518	4,233	4,347	5,031	3,676	3,266	5,518	2,592	2,007	2,365	3,318	45,009

キャンプ場利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18年度	77	4,933	3,651	2,470	4,062	1,798	1,155	146	209	97	87	101	18,786
19年度	167	4,653	2,799	2,080	4,178	1,954	835	172	207	85	95	215	17,440

(3) 主催事業実績

県直営時に計画実施してきた主催事業をそのまま日程的には引き継いだ。内容については、全面的に見直しを行った。家族を対象としたハイキングを主とした事業においては、コースを選択制にしたり、夏の長期キャンプは、より原生活体験型（全日程自炊、テント泊とするなど）のキャンプにシフトした。

事業種	事業名	実施日	対象	人数
青少年自然体験事業	冒険キャンプin朝霧	7/28(土)～8/5(日)	小5～中3	42人
野外教育 指導者養成事業	宿泊利用団体担当者研修会	4/13(金)・9/9(日)・2/15(金)	利用団体担当者	計 277人
	野外活動プログラム実習	4/14(土)	利用団体担当者	77人
	長期キャンプ指導者養成講習会	6/9(土)～10(日) 7/7(土)～8(日) 7/28(土)～8/5(日) 10/6(土)～7(日)	大学生等 (全4回参加)	11人
	野外教育指導者養成講習会	2/9(土)～11日(月) 3/14(金)～16日(日)	教育関係者等	計 33人
	野外ゲーム実習	9/21(金)	指導者等	16人
県民自然体験事業	ちょっといい春感じませんか	4/28(土)～29(日)	家族等	130人
	ステキな秋をあなたに	10/13(土)～14(日)	家族等	110人
	オリエンテーリングin朝霧	10/27(土)～28日(日)	小グループ等	123人
施設開放事業	プラネタリウム一般開放	毎月1回日曜日	家族等	計 1,242人
	スケート一般利用	11月～3月の日曜日	家族等	計 1,921人
	朝霧カーニバル	11/11(日)	一般	2,183人

(4) 成果(新たな取り組み)と課題

主な19年度における新たな取り組みとして、キャンプ場利用時に職員をキャンプセンターに常駐、休所日の柔軟な設定、タベのつどいへの出席可能職員が全員参加、AED設置、MTB全面修繕、スケート場定員を100から75人に変更(安全確保のため)、キャンプ場内財産区林の伐採森林整備、主催事業内容の全面見直し、活動プログラム(クラフト)の改廃などがあげられる。

課題として、職員体制が厳しい場面が多かったこと、改築後11年を経過した施設の至る所での経年劣化による予測のつかない修繕が多かったこと(特にスケートリンク施設、プラネタリウム施設は多額の修繕費が見込まれている)、全活動プログラムをまだ全職員が指導できないこと、新プログラムの開発などがある。

10) 各種団体等への共催・後援・協力

(1) キャンプ、野外活動の普及・振興に関する事業の後援等を行った。

【共催・後援・協力】

団体名	期間	事業名	
(財)大阪YMCA	3/27～4/2	ハワイ アロハキャンプ 2008	後援
奈良県キャンプ協会	4/7	第6回キャンプフォーラム「スキルワークショップ」	後援
(財)修養団(SYD)	5～H20/3	子どもゆめ体験アクションプラン2007	後援
(財)修養団(SYD)	5～H20/3	子どもボランティア体験アクションプラン2007	後援
(NPO)野外活動推進事業団	5/12～13	チャレンジャーズ・レース2007大会	後援
横浜市教育委員会他	5/12～12/9	横浜市野外活動指導者養成講座	共催
ICF Friends in Japan	7/14	ICFFJ・東京YMCAキャンプ・リーダーズ・ワークショップ	後援
日本通運(株) 埼玉支店	7/22～7/27	次世代育成事業「学研キャンプ」	後援
(株)学習研究社	7/24～7/28	沖縄海洋スクール	後援
(財)大阪YMCA	7/27～8/11	ミネソタキャンプ2007	後援
宮城県レクリエーション協会	7/28～7/30	地球の恵みで遊文化	後援

(NPO)環太平洋学生キャンプ	8/4~19	第23回環太平洋学生キャンプ	後援
石川県キャンプ協会	8/18~19	門前わくわく夢キャンプ	共催
(財)修養団(SYD)	8/21~27	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
国立岩手山青少年交流の家	8/24~9/2	カンガルーキャンプ	後援
WOODSキャンプ実行委員会	11/22~25	WOODSキャンプイベント	後援
あしがらシニアキャンプ実行委員会	9/29~30	あしがらシニアキャンプ	後援
(財)日本教育科学研究所	10/7~8	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
岐阜県キャンプ協会	10/12~14	第1回 岐阜県キャンプ大会フェスティバル	後援
東京都キャンプ協会	10/13~14	教師のための体験塾	共催
滋賀県キャンプ協会	10/13~H20/3/1	キャンプ万歳! 世界の友と共に!	共催
(財)日本レクリエーション協会	10/28	第61回全国レクリエーション大会	共催
ICF FriendsinJapan・東京	11/2~4	ICFFJ・東京 YWCA 2007年冬 ワークショップ	協力
YWCA 野外環境教育部	12/3		後援
(財)大阪府青少年活動財団	H20/1/23~24	野外活動促進セミナー	後援
国立赤城青少年交流の家	H20/2/9~2/11	環境教育関東ミーティング	後援
鹿児島県キャンプ協会	H20/2/16~2/17	アウトドア活動セミナー	後援
秋田県キャンプ協会	H20/2/23~2/24	スノウキャンプ2008	後援
日本通運(株) 東京旅行支店	H20/2/26~3/30	奄美大島自然体験スクール	後援
日本通運(株) 東京旅行支店	H20/3/31~4/2	鴨川海洋動物自然体験スクール	後援

(2) 会議の開催

会議名	回数	開催日	
総会	2	5月19日	3月22日
理事会	2	5月19日	3月8日
常務理事会	7	5月10日	6月28日 9月19日 10月25日 11月28日 12月19日 2月19日
会計監査	1	5月10日	
全国事務局担当者会	2	5月20日	3月23日
支部ブロック会議	10	5月20日	全ブロック 東京(国立青少年センター)
		7月8日	近畿ブロック 京都府京都市
		9月15日	全ブロック 和歌山県高野山
		10月27日	近畿ブロック 滋賀県近江八幡市
		11月3日~4日	九州・沖縄ブロック 長崎県諫早市
		11月4日	北海道・東北ブロック 山形県山形市
		1月19日	中国・四国ブロック 岡山県岡山市
		2月23日	近畿ブロック 大阪府大阪市
		2月23日~24日	中部・北陸ブロック 静岡県富士宮市
		3月22日	全ブロック 東京(国立青少年センター)
専門委員会			
総務委員会(運営会議)	2	5月10日	2月19日
普及サービス委員会	13	4月19日	4月28日~29日(青年M) 5月15日(青年M) 6月7日 6月12日(青年M) 6月26日(青年M) 7月3日(青年M) 10月16日 11月26日 1月15日 1月21日 2月4日 2月25日
指導者養成委員会	7	4月15日	5月19日 6月8日 9月26日(京都) 11月15日(大阪) 1月11日 2月15日
情報サービス委員会	6	4月23日	7月2日 10月15日 12月1日~2日(朝霧) 1月25日 3月17日
調査研究委員会	10	5月1日	6月22日 6月2日(文科委託) 6月28日(文科委託) 9月28日(文科委託) 10月15日 11月12日(文科委託) 12月4日 1月28日(文科委託) 2月20日
安全管理委員会	7	4月13日	6月7日 10月12日 11月7日(神奈川) 11月30日 2月8日 3月21日

国際交流委員会	6	7月16日 9月9日(新宿) 9月26日 11月11日 12月17日 3月7日
基準整備委員会	5	4月15日 5月31日 7月5日 10月4日 2月7日
出版委員会	4	5月25日 6月22日 11月30日 2月13日
役員選考委員会	2	10月25日 2月25日
全体専門委員会	1	4月14日～15日 静岡県(朝霧野外活動センター)
その他の会議		
野外活動団体協議会	1	3月18日
全国野外活動指導者	1	6月8日～10日
事務局会議		毎週水曜日 随時 9月3日～4日(川崎市)
朝霧野外活動センター関係	19	4月1日(職員入職式) 4月19日(県教委来訪) 4月26日(県立4所会議) 5月31日～6月1日(全青施協) 6月6日(県教委訪問) 6月29日(静青施協) 7月26日(所長会) 8月6日(防災訓練) 10月5日(所長会) 10月30日～31日(東海地区青年の家協議会) 11月11日(地域懇談会) 11月16日(所長会) 1月8日(県庁訪問) 1月19日(200万人来所式) 1月31日(所長会) 3月4日(防災訓練) 3月11日(所長会) 3月17日(外部評価伝達会) 3月31日(地域へのあいさつ)

*特に表記のない場合、会場は東京・国立青少年センターです。

CAMPING AWARD 2007 受賞者

音石 康一(おといし こういち)さん

【岩手県キャンプ協会】

平成5年5月23日に設立された岩手県キャンプ協会の設立発起人として尽力、平成13年4月より岩手県キャンプ協会会長を務められる。設立以来欠かすことなく行っているキャンプインストラクター養成講習会では主任講師として活躍。平成18年に北海道・東北ブロック選出の社団法人日本キャンプ協会の理事となる。ボーイスカウトのトレーナー資格やレクリエーション・コーディネーター資格を駆使して岩手県下におけるキャンプ協会活動に多大な影響力を発揮されている。

(故)伊藤 泰一(いとう たいいち)さん

【宮城県キャンプ協会】

平成10年10月、宮城県キャンプ協会設立時に理事に就任。子ども達を対象としたキャンプ活動の実績は特に高く評価されている。努力家で、理事就任後にキャンプディレクター1級を取得。インストラクター養成講習会に積極的に参画して指導者養成に努められた。また、小中学生を対象とした「地球の恵で遊文化」と銘打ったキャンプを企画、「自然」と「エネルギー」をテーマとしたキャンプのディレクターとして、運営はもとより団体間の連携、スタッフ養成に尽力された。今後の活躍が大いに期待されたが平成19年1月22日に47歳の若さで急逝された。

中島 祥文(なかじま よしふみ)さん

【栃木県キャンプ協会】

ネケちゃんの愛称で親しまれるキャンプ仲間である。教員でありながら長年、教育委員会に在籍して社会教育、生涯学習に携わり昨年やっと学校に戻る。栃木県キャンプ協会が毎夏実施している「自然生活体験キャンプ」では、時には先頭に立ち、時には裏方に徹して後進の育成に努めるなどその功績は大きい。特に第15回全国キャンプ大会主管開催時には、実行副委員長、運営委員長として汗を流し天の恵み地の利があったとは言え、人の和をとりまとめ悔いのない成果をもたらしたことは衆目の認めるところで人望の厚さを物語るものである。

小野里 清治(おのざと せいじ)さん

【群馬県キャンプ協会】

群馬県キャンプ協会の復活に尽力され、以来、理事長として、会の円滑な運営と発展、キャンプの普及に寄与

するなど、協会のリーダーとして活躍され常に広い視野をもちながら、理論と実践の両輪で協会を牽引されている。また、年少の頃からボーイスカウト活動にも励まれ、知恵と技能と愛情を兼ね備えた人間として、会員はもとより青少年教育・社会教育に携わる方々からの信頼も絶大である。青少年教育一筋の人生を邁進され、長期の教育キャンプをデザインし、長年にわたって実施するなど、県教育行政に対しても、多大なる功績を残している。

篠塚 博道（しのづか ひろみち）さん

【千葉県キャンプ協会】

千葉県キャンプ協会の設立当初よりその活動にかかわり、検定委員長、事務局長の要職を歴任し平成14年度より理事長に就任し現在にいたる。自然に対する造詣が深く、野外活動全般に対する知識、技能も豊富で各種講習会にも講師として指導にあたっている。又、運営面ではパソコン導入による事務管理、ホームページの指導管理など多岐にわたり理事会の要となって指導力を発揮し、現在は当協会の基本方針である「市町村協会の設立支援」や運営基盤強化のための「NPO法人化」に注力しており、その功績は大なるものがある。

神谷 明宏（かみや あきひろ）さん

【東京都キャンプ協会】

東京都キャンプ協会の変革期において理事として大いに活躍。現在の中心となるメンバーの育成や協会の方向性を明確にした。特に事業部長として、「子どもとファミリーのためのキャンプ」を開催。幼児から高校生、更には保護者も主体的に参加するキャンプを実施し、大きな成果をあげた。また、指導者養成やセミナーを企画・運営。キャンプの底辺拡大と指導者の資質の向上を図り、それまでの会員の管理が中心だった協会を、現在の姿に大きく変化させた。本質を捉えた、的確で厳しい指導は、その背景にある優しさと共に、我々に大きな影響を与えてくれた。

深谷 敏（ふかたに さとし）さん

【石川県キャンプ協会】

幼少年時代から身近に広がる山や川の大自然をステージとし跳びまわっておられた野生児である。昭和55年石川県職員となり、同57年小松市でおこなわれた「第1回小松市レクリエーションカレッジ」に参加され、そこで和田芳治氏に出会いレクリエーション活動の魅力にそまっていかれた。平成3年、レク仲間とともに石川県キャンプ協会を設立され、事務局長として長年、協会の発展に大きく貢献してこられた。平成17年からは副理事長としてキャンプの普及に努めておられる。

草川 一枝（くさかわ かずえ）さん

【滋賀県キャンプ協会】

昭和62年、滋賀県キャンプ協会の設立に当たりその中核として県内のキャンプ関係者や施設等に働きかけ、滋賀県協会の基盤作りに貢献。また、初代会長としてキャンプの普及、組織運営や指導者養成に力を注がれるとともに矯正教育の場に野外活動を取り入れたり、高齢者のキャンプを展開する等幅広い活動を展開してこられた。会長職を退かれた後も顧問として、多くのご助言やご示唆をいただき現在に至っている。氏は特にマナーを重視され、自然や人との関わりの中で示された多くの教訓は滋賀県協会の大切な「心」として今に受け継がれている。

石田 松太郎（いしだ まつたろう）さん

【京都キャンプ協会】

1980年の京都キャンプ設立に多大な貢献をされ、以来理事・監事として重責を担ってこられた。また、ボーイスカウト京都連盟の発展に尽力されると共に、城陽市にある財団法人青少年野外活動総合センター「友愛の丘」の設立に関わり、常務理事・場長として長年務められ京都府下の子どもたちの指導にあたってこられた。今日まで、長年にわたってキャンプの普及と青少年育成ならびに指導者の輩出に傑出した力を発揮された。なお著書に『現代野外教育概論』（海声社）がある。

財団法人 関西テレビ青少年育成事業団

【大阪府キャンプ協会】

青少年の健全育成を図ることを目的に、1978年に設立され、今年設立30周年を迎えた財団法人関西テレビ青少年育成事業団は、設立以来、野外活動を通して、青少年の健全育成活動に取り組むとともに、多くの野外活動指導者を養成してきた。また、青少年団体やNPO、地域団体で活動する野外活動指導者の養成と交流を目的

にリーダーズギャザリング事業を毎年実施する他、安全な野外活動のための講習会を実施する等、大阪における野外活動指導者の養成に、また野外活動の普及発展に大きな貢献をした。

速 水 順 一 郎 (はやみ じゅんいちろう)さん

【兵庫県キャンプ協会】 1

1988年の兵庫県キャンプ協会発足当時より理事を務められ兵庫県協会の発展に尽くしてこられた。現在も運営委員として県内の野外活動の普及、振興に寄与しておられる。また、社団法人兵庫県こども会連合会常務理事・事務局長として地域の青少年育成にも長年たずさわって来られ、青年ボランティアや地元の人々による手づくり村を舞台に、自然や人と触れ合いながら子ども達の自主性、創造性、冒険心をはぐくむ「兵庫県こども自然村」の開設、運営に携わり、そのプログラム展開にも大きな力を注いでおられる。

堀 進 (ほり すずむ)さん

【奈良県キャンプ協会】

1988年からボーイスカウトのリーダー活動を始められカブ隊、ボーイ隊、ローバー隊などの隊長として子ども達と活動されると共に、団委員長や組織委員、日本ボーイスカウト奈良県連盟の理事として青少年の健全育成に尽力されておられる。奈良県キャンプ協会設立と同時に入会し、協会の事業に熱心に参加され、実行委員として協力頂き、2003年から県BS連盟の当協会担当となり常任理事として事業推進や広報に多大な協力を果たされた。青少年育成への熱心で冷静な態度や温厚でまじめな人柄は多くの人に親しまれている。

伊 藤 薫 (いとう かおる)さん

【島根県キャンプ協会】

昭和49年松江市教育委員会主催のキャンプ指導者養成講習会に参加しキャンプ活動を始められた。その後、島根県協会事務局長、理事長を務められ現在は県キャンプ協会副会長。特に平成6年に島根県で開催された「第48回全国レクリエーション大会キャンプ部門」において企画・運営に尽力され、現在世界的に有名になった故坪田愛華さんの遺作「地球の秘密」にヒントを得てテーマに環境問題を取り上げ絶賛を得た。その感動のキャンプの火は「島根キャンプフェスティバル」へと継続され、爾来キャンプの企画・運営指導スタッフとして率先して尽力しておられる。

内 河 内 洋 (うちごうち ひろし)さん

【広島県キャンプ協会】

長年に渡り広島県の野外活動の振興に努めてこられたキャンプ指導の第一人者である。平成9年5月に広島市キャンプ協会を設立させ初代の事務局長に就任し、キャンプの指導者を養成する等普及活動に奔走された。また平成7年には、広島県野外活動協会を発展的に解消し広島県キャンプ協会の設立にも尽力され理事に就任し本日に至っている。広島県キャンプ協会の重鎮として後継者の育成に視点を置き、時代の課題である福祉キャンプへの新しい取り組みは、高齢化社会の道標として、これからも期待は大きい。

田 中 傳 (たなか つたえ)さん

【山口県キャンプ協会】

中学校教員在籍中より社会教育振興及び普及活動に尽瘁し、特に野外活動教育に対しては、山口県の草分け的存在で情熱を持って普及活動に挺身する。とりわけ、野外活動団体の設立、活動については縁の下の力として、下積みの、献身的努力をされている。昭和44年、山口県キャンプ協会発起人として設立に尽力を捧げ、現在副会長として指導者の育成に努める。青少年の健全育成のため、山口県教育委員会主催のチャレンジキャンプ(8泊9日)のキャンプ長として、山野跋涉を続けることはなみなみならぬ青少年健全育成活動に対する熱意である。

重 松 良 和 (しげまつ よしかず)さん

【愛媛県キャンプ協会】

長年にわたり野外活動全般に関わり研鑽を高められ、愛媛県キャンプ協会の発足に際しては準備会のメンバーとして関係機関との連絡・調整係として献身的に活動され、県協会発足に貢献された。県協会発足後は、事務局次長として各種事業に関わり、特に指導者養成事業に力を注ぎ、後継者育成に尽力されている。現在は、事務局長として行事全般を統括し県協会の要として活動しておられる。

麻田 正博（あさだ まさひろ）さん

【高知県キャンプ協会】

高知県キャンプ協会設立当初より協会役員として、高知県キャンプ協会の発展のために尽力され、多年にわたり高知県のキャンプ活動の推進や組織運営に貢献された。平成15年に会長就任後は、高知県協会の更なる資質の向上にリーダーシップを発揮され、現在は協会顧問としてご指導頂いている。また、高知県山岳連盟の元理事長としても高知県キャンプ活動の技術の向上や高知県体育振興の推進に寄与され、現在もユニバーサルキャンプの責任者など高知県キャンプ運動の発展に尽力されている。

宮野 繁美（みやの しげみ）さん

【福岡県キャンプ協会】

昭和53年から福岡県教育委員会及び県内市町村の社会教育指導員として、青少年を対象とした自然体験活動に関わってこられ、昭和55年の福岡県キャンプ協会創立時には理事として参画。爾来県協会の発展に尽力された。

また、国や県の野外活動施設が主催する不登校生徒等を対象とした事業の主任講師等を務められ、青少年と直に接しながらの指導に取り組み大きな成果を上げてこられた。平成12年からは筑紫野市立「竜岩自然の家」の所長として勤務され、若者からシニアに至るまでの幅広い年代層の指導者養成事業や自然体験活動事業に携わっておられる。

土井 眞信（どい まさのぶ）さん

【佐賀県キャンプ協会】

1972年佐賀県青年の家配属を皮切りに23年余り国公立青少年の家に勤務。現在に至るまで長年、青少年対象のキャンプ指導や指導者養成に携わってきた。佐賀県内では多くの野外活動家の精神的支柱として親しまれ、活躍している教え子も多い。佐賀県キャンプ協会設立時は準備委員会のメンバーとして協会設立に尽力。95年の設立後は、監事、理事を一期も欠かすことなく歴任、2006年度から副会長を務める。04年には生涯スポーツ功労者として文部科学大臣表彰を受けた。

萬野 眞信（まんの まさのぶ）さん

【熊本県キャンプ協会】

昭和22年にボーイスカウト熊本第4団に入隊。ボーイスカウト日本連盟トレーナーやボーイスカウト熊本県連コミッショナーなども歴任され、青少年の健全育成に寄与されている。また、国立阿蘇青少年交流の家や熊本市あそ教育キャンプ場など、熊本県内の多くの野外活動施設の開設・運営に貢献し、何よりも野外活動リーダーの育成に大きな力を注いでいる。平成13年に熊本県キャンプ協会会長に就任。「自然との共生」というミッションのもと、休眠状態だった熊本県協会の再建を図り、同18年には全国キャンプソング・フェスティバルの実行委員長を務められた。

(故)北 條 明 美（ほうじょう あけみ）さん

【日本 キャンプ協会】

日本キャンプ協会で開催してきた「キャンプアカデミー」のレクリエーション、キャンプファイアーの欠かさない指導者であった。特に氏のキャンプファイアーは多くのキャンパーに強い刺激と影響を与え、伝説となって今日も語り継がれている。1985年に国際武道大学に教授として赴任され、平成3年日本キャンプ協会の法人化と同時に理事に就任。平成6年からは監事として重責を担われた。穏やかで暖かい人柄は自然と人を引きつける魅力に満ちておられた。平成18年7月4日、大学の講義に向かう階段で仆れ、ついに帰らぬ人となられた。64歳の生涯であった。レクリエーション人としてキャンプ人として一つの生き方を示された人生であった。

(故)古 賀 康 義（こが やすよし）さん

【日本 キャンプ協会】

県キャンプ協会の理事としてキャンプを通しての障害児の療育に熱心に取り組まれると共に、地域の協会の育成、社会福祉施設のボランティア活動や、職員の研修に力を注いで来られた。平成7年に学校現場に戻られた後は、校長として不登校生徒の指導に取り組み大きな成果を上げられた。平成15年福岡県キャンプ協会会長に就任。翌平成16年からは社団法人日本キャンプ協会理事の重責をも担われ、日本のキャンプの普及振興に力を尽くされた。平成19年1月23日、65歳の若さで急逝されたが、福岡県の社会教育、キャンプ界の誉として「古賀康義」の名前はこれからも語り続けられる人物である。